

# 2009年度実績の概要と2010年度の経営方針

---

**株式会社 三井住友フィナンシャルグループ**

2010年5月14日

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化する可能性があることにご留意ください。

# 2009年度実績の概要

## 2009年度の経営方針:

「基本原則に則った業務運営の徹底により、守りを固めつつ、着実な成長を目指す」

「経費」「クレジットコスト」「リスクアセット」の3つのコントロールを意識した業務運営により、着実な業績回復を実現しました。また、国際的な自己資本規制のフレームワークが明らかとなるなか、新たな規制・競争環境下においても持続的成長を実現できる体制を構築するために、強靱な資本基盤の構築に向けて普通株増資等の施策を実施しましたほか、日興コーディアル証券をSMBCの完全子会社とするなど、着実な成長を実現する事業ポートフォリオの構築を推進いたしました。

### 「経費」「クレジットコスト」「リスクアセット」のコントロール

#### SMBC単体

##### 経費

経費率は40%台を維持

##### クレジットコスト

取引先の状況に応じたきめ細かな対応等により、前年比、11月予想比ともに大幅な削減

#### SMFG連結

##### 当期純利益

SMBCの増益を主因に、前年比、11月予想比ともに増益を確保

### グローバルプレーヤーに相応しい財務体質の実現

- 累計で発行価額総額1.8兆円の普通株増資を実施
- 資本性証券の買戻し(総額2,900億円)
- 転換型優先株式の普通株式転換

### 成長事業領域の強化

- SMBCが日興コーディアル証券を完全子会社化、総合証券会社として業務開始
- オリックス・クレジットの連結子会社化
- アジアの商業銀行との資本・業務提携等
  - ✓ バンク セントラル アジア(インドネシア):業務提携
  - ✓ ベトナムエグジムバンク:技術支援契約締結
  - ✓ 東亜銀行(香港):出資

# (参考)2009年度決算の概況

P/L

(億円)		09年度	前年比	11月発表 業績 予想比
SMBC 単体	業務粗利益	14,553	▲696	+ 103
	経費	▲6,858	△157	△92
	<経費率>	47.1%	+ 1.1%	△1.0%
	業務純益*1	7,695	▲539	+ 195
	与信関係費用*2	▲2,547	△2,954	△853
	株式等損益	39	+ 2,243	
	経常利益	4,627	+4,266	+ 1,327
	当期純利益	3,180	+ 6,191	+ 1,180
SMFG 連結	経常利益	5,588	+ 5,135	+ 688
	当期純利益	2,716	+ 6,450	+ 516

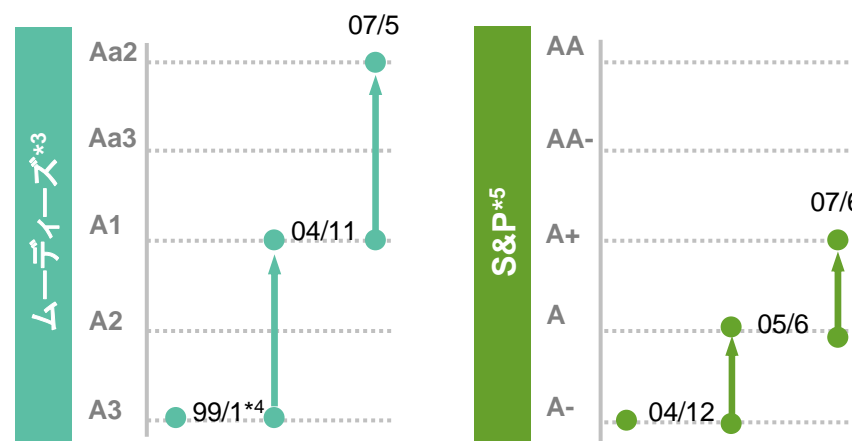
参考

自己資本関連(速報値)

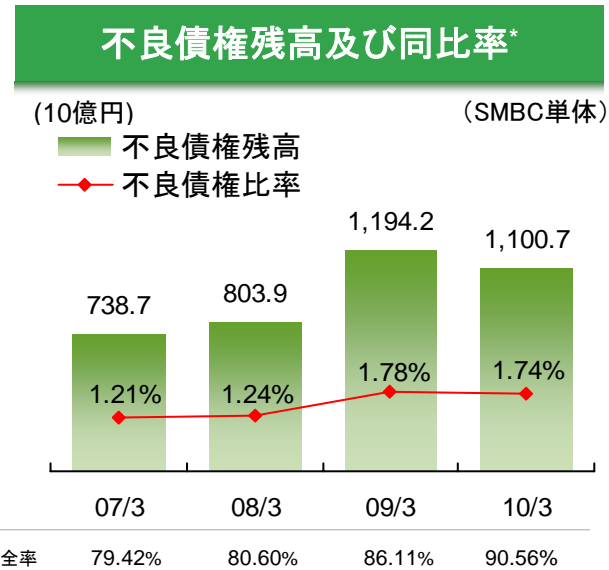
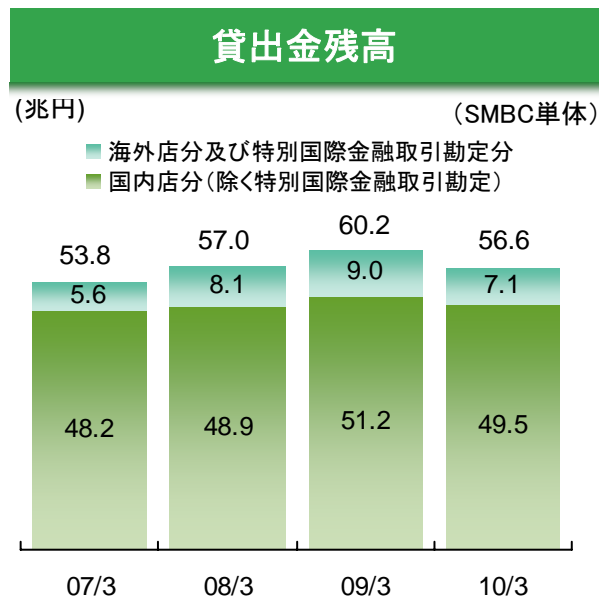
		10/3月末	09/3月末比
SMFG 連結	自己資本比率	15.02%	+ 3.55%
	Tier I比率	11.15%	+ 2.93%

参考

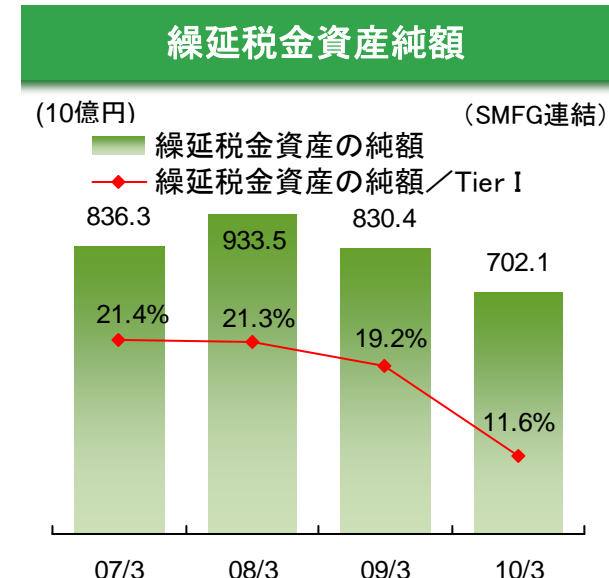
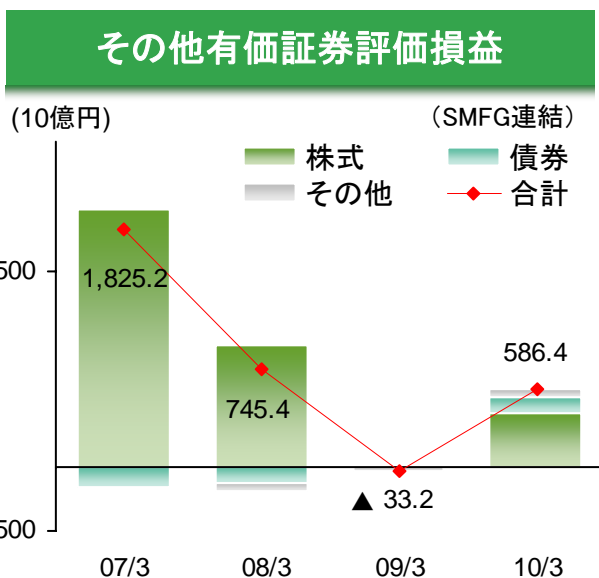
格付(三井住友銀行)



# (参考) 2009年度 B/S関連



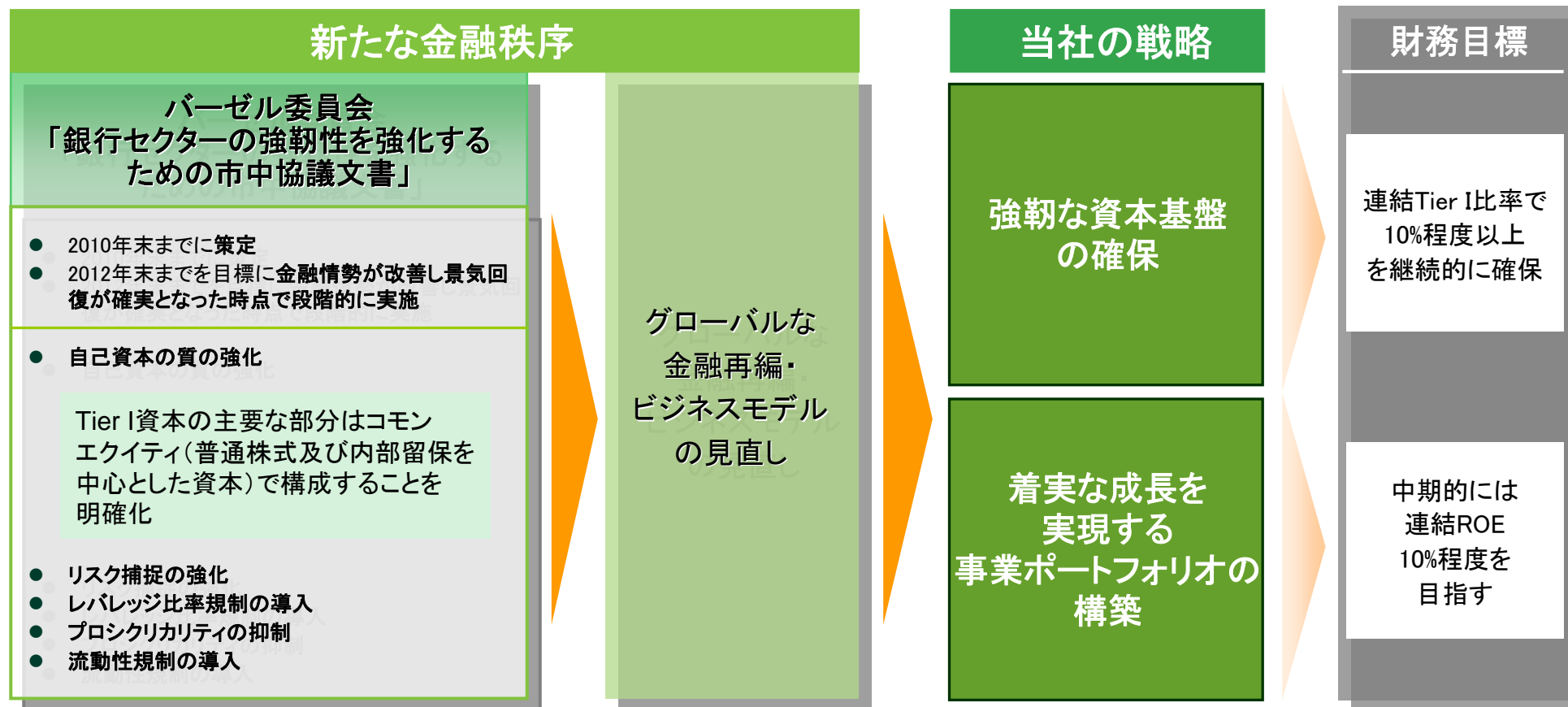
\* 不良債権比率=金融再生法開示債権残高(除く正常債権)/総与信



## 2010年度 経営方針（1）

「変化の先を読み、新たな規制・競争環境においても着実な成長を実現するビジネスモデルへの転換を図る」「リスクリターン・コストリターンを重視し、アセットクオリティの改善と経費・クレジットコストのコントロールを徹底する」

規制・競争環境が変化するなか、海外・証券等の成長分野への資源投入により、収益力強化を図るとともに、円滑な資金供給を行いつつ、アセットの入れ替えによるリターンの改善とクレジットコストの抑制に注力し、「強靱な資本基盤の確保」と「着実な成長を実現する事業ポートフォリオの構築」を推進してまいります。



## 2010年度 経営方針(2)

### 強靱な資本基盤の確保

- 業務計画に則った着実な収益の計上
- 保有株式にかかる株価変動リスクの削減
- NYSE上場に向けた取組み

### 着実な成長を実現する事業ポートフォリオの構築

### 既存ビジネスの見直しによるボトムライン収益の強化／業務プロセスの改善による生産性の更なる向上

- 円滑な資金供給を行いつつ、アセットの入れ替えによるリターンの改善／クレジットコスト・経費の抑制に注力

### 成長分野への重点的な取組みによるリターンの追求／アドバイザー機能の活用による顧客対応力の更なる強化

#### 法人向けソリューション ビジネス／ 投資銀行・信託業務

#### ホールセール／ リテール証券業務

#### 個人向け 金融コンサルティング ビジネス

- 中小企業のお客さまの資金調達ニーズへの対応
- お客さまの経営課題に対して最適な解決策を提供
- 日興コーディアル証券との銀証融合ビジネスの推進
  - ✓ ホールセール証券業務機能の整備・早期収益化
  - ✓ リテール証券業務の持続的拡大
- 商品ラインアップを一層拡充
- コンサルタントのスキル向上

#### 支払・決済・ コンシューマー ファイナンス

#### グローバルマーケット における特定分野

- セディナの連結子会社化によるクレジットカード事業の着実な推進
- カスケード事業運営の見直し、アットローンとプロミスの合併(11/4月予定)
- 国際CMS(キャッシュマネジメントサービス)の推進
- アジアを軸とした海外業務へのアセット投入と調達の多様化・安定化
- 専門性の高いファイナンス業務の継続的強化・プロダクツ業務拡大
- 内外一体となったお客さまのニーズ対応
- アジアの商業銀行との資本・業務提携推進

### (参考)2010年度業績予想

		(億円)	
		09年度実績	10年度予想
SMBC単体	業務純益*1	7,695	7,600
	経常利益	4,627	4,800
	当期純利益	3,180	3,300
	与信関係費用	▲2,547	▲2,200
SMFG連結	経常利益	5,588	6,900
	当期純利益	2,716	3,400

\*1 一般貸倒引当金繰入前

## 普通株式発行可能株式総数の増加について

当社の普通株式の発行余力は、約86百万株と極めて限定的なものとなっております。  
当社グループといたしましては、インオーガニックな成長機会の捕捉も含めた、更なる成長事業領域の強化のための戦略的機動性を確保することが、中長期的な企業価値向上の観点から必要であると考え、普通株式発行可能株式総数を、現在の15億株から30億株へ拡大するため、定款の一部変更について、平成22年6月29日開催予定の株主総会に付議いたします。

### 現状

#### 09年度施策

- 発行価額総額累計1.8兆円の普通株増資
- 転換型優先株式の普通株式転換 等

### 定款変更の目的

中長期的な企業価値向上に向け、インオーガニックな成長機会の捕捉も含めた、更なる成長事業領域の強化のための戦略的機動性を確保

但し、連結Tier I比率目標達成の観点から更なる普通株増資を行うことは想定しておりません。  
また、「買収防衛策」の導入を意図して行うものではありません。

(百万株)	09/3月末	10/3月末
普通株式発行可能株式総数 (A)	1,500	1,500
発行済普通株式数 (B)	789	1,414
普通株式の発行余力 (A-B) (C)	711	86
C/A	約 47.4%	約 5.7%

→ 3,000百万株へ拡大

#### (参考)連結Tier I比率の推移

業務計画に則った着実な収益の計上等により、連結Tier I比率10%程度以上を継続的に確保

